



## 昔の人の防火の知恵「うだつ」

かつて一部の日本家屋には、うだつと呼ばれる防火のための工夫がありました。市内でもその姿を見ることができます。



▲畦町にあるかつての牛乳所に建てられたうだつ(写真中央屋根の張り出た部分)

うだつは、家と家の境に建てられ、隣から火が燃え移らないように備えられた防火壁です。日本国内の家が密集している地域で建てられています。江戸時代頃から建てられ始めたとき、「柵や卯建、宇立」といった漢字で表されています。市内では、古い町並みが残る畦町や津屋崎千軒などで見ることができます。

写真にある畦町のうだつは、明治初期に建築されたものです。このうだつは、旧宗像郡で初めてできた乳牛を飼い牛乳を販売していた「牛乳所」に設けられました。

また、うだつは防火壁としての機能の他にも、家の装飾としての役割もありました。そして、裕福な家は高く立派なうだつを競って建てたそうです。いつまでたっても出世しない、生活が向上しないという意味のことわざ「うだつが由来だとされています」。

